

4 教科の学びにつながる

- 1 かわさきGIGAスクール構想 ステップ2
- 2 「個別最適な学び」でGIGA端末を活用する
- 3 「協働的な学び」でGIGA端末を活用する
- 4 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を組み立てる
- 5 「主体的・対話的で深い学び」は単元・題材を通して実現する
- 6 「主体的・対話的で深い学び」で資質・能力を育成する
- 7 「主体的な学び」に向けた授業改善の視点
- 8 「対話的な学び」に向けた授業改善の視点
- 9 「深い学び」に向けた授業改善の視点
- 10 「主体的・対話的で深い学び」でGIGA端末を活用する
- 11 「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて



4-1 かわさきGIGAスクール構想 ステップ2

ステップ2では、令和の日本型教育を構築していくために、クラウドへの学びの蓄積を生かして、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実していきます。それを、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることで、児童生徒の資質・能力を育成していきます。

資質・能力の育成

授業改善

主体的な学び



対話的な学び



深い学び



個別最適な学び



一体的に充実

学びに生かす

協働的な学び

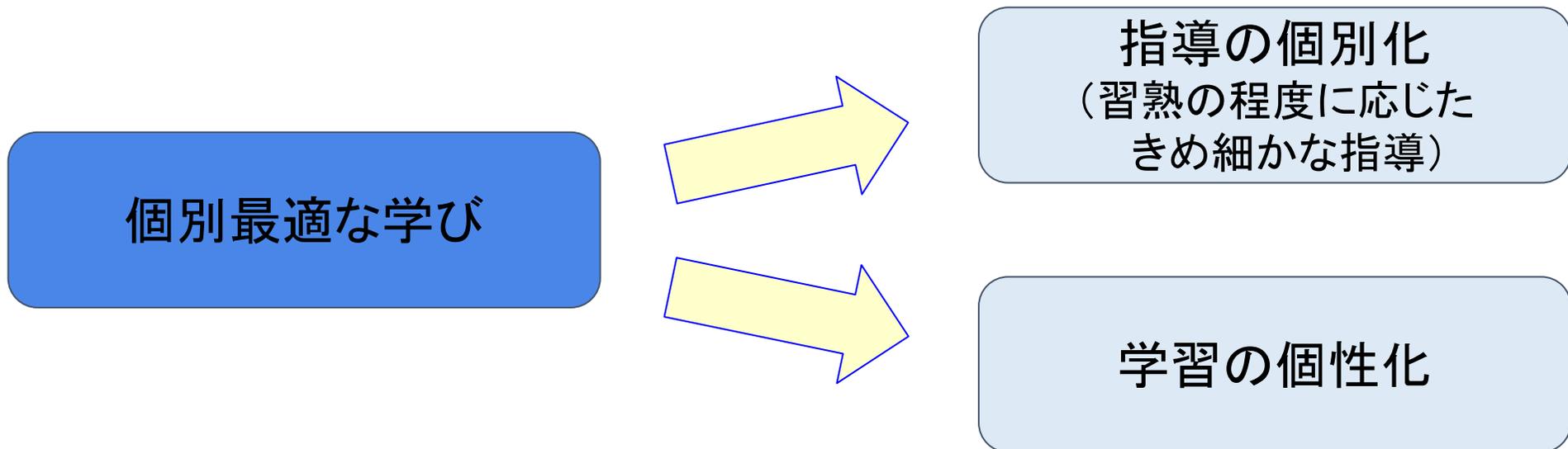


GIGAスクール構想(クラウドの活用)

4-2-1 「個別最適な学び」でGIGA端末を活用する

児童生徒が自己調整しながら学習を進めていく「個別最適な学び」を充実するために、GIGA端末を活用します。「個別最適な学び」には、「指導の個別化」と「学習の個性化」の二つの側面があります。

川崎市では、これまでも「習熟の程度に応じたきめ細かな指導」として「指導の個別化」に取り組んできましたが、ここにGIGA端末を活用していきます。



- 個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援すること
- 児童生徒自らの学習状況を把握し、主体的に学習を調整するよう促すしていくこと

4-2-2「個別最適な学び」でGIGA端末を活用する

指導の個別化×GIGA端末

「指導の個別化」とは、児童生徒一人ひとりの特性・学習進度・学習到達度等に応じ、教師が必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行うことです。

GIGA端末を活用することで得られるデータから、児童生徒の学習の状況を把握・分析したり、一人ひとりに合った指導を行うことで資質・能力の育成につなげます。また、学習履歴(スタディ・ログ)等を活用し、児童生徒が自らに合った学習の進め方を考えられるよう指導を工夫します。



GIGA端末を活用することでClassroomやオクリンク、画像など様々な形で児童生徒の学びはクラウドに蓄積されていきます。こうしたクラウドに蓄積された学びを丁寧に見取りながら、個に応じた指導をすることが大切です。

学習の習熟にはドリルパークも有効です。機能を活用し学習進度を把握するとともに、個別に声をかけるなどの支援を行います。

4-2-3 「個別最適な学び」でGIGA端末を活用する

学習の個性化×GIGA端末

「学習の個性化」とは、児童生徒が興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め広げることの意味し、児童生徒自身がどのような方向性で学習を進めていったら良いかを考えていくことなども含みます。

情報の探索、データの処理や視覚化、情報発信等の活動にGIGA端末を使うことで、学びの質を高め「深い学び」につなげます。また、児童生徒がこれまでの経験やこれからのキャリアを基に、自ら適切に学習課題を設定し取り組めるよう指導を工夫します。



GIGA端末を活用することで、児童生徒はいつでも「調べる」「表現する」「(学びを)積み重ねる」「伝える」「共有する」などの活動を行うことができます。

児童生徒に明確な学習のねらいを示すこと、見通しをもって活動していけるように支援していくことが大切です。

4-3 「協働的な学び」でGIGA端末を活用する

協働的な学び×GIGA端末

「協働的な学び」とは、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を生かし、児童生徒同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を獲得する学びのことです。

GIGA端末を活用して、児童生徒一人ひとりが自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動に取り組みます。また、遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動も可能となります。



個別最適な学びの成果を協働的な学びに生かし、更にその成果を個別最適な学びに還元することを通して、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていくことが大切です。

児童生徒一人ひとりが多様性を生かし学び合えるよう、教師の支援が鍵となります。

4-4 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を組み立てる

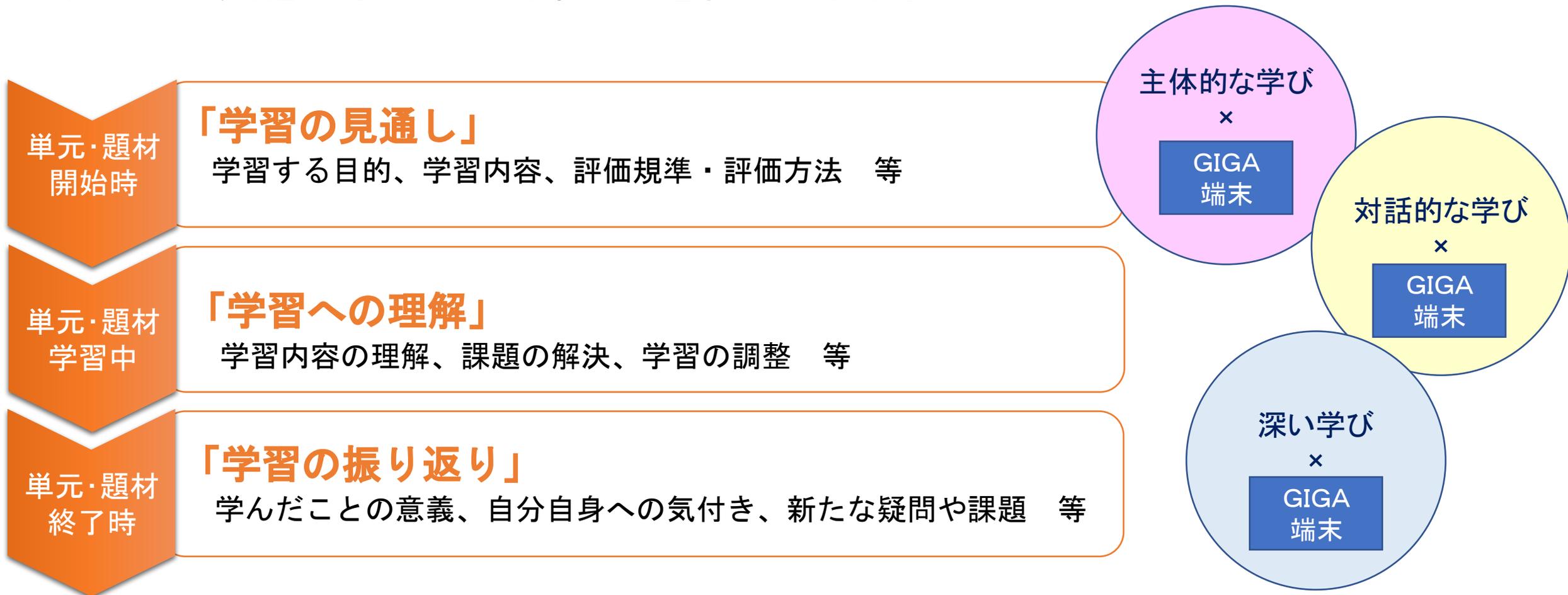
授業の目標を立て、どのように授業を組み立てればよいのか考えます。そして、児童生徒が「どのように学ぶのか」を「主体的・対話的で深い学び」の視点から検討した上で、GIGA端末の活用を計画します。



◆GIGA端末を使うことが目的にならないように注意しましょう！

4-5 「主体的・対話的で深い学び」は単元・題材を通して実現する

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の授業を計画するときは、必ずしも1時間の授業で全てを行うのではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、どこで実施することが効果的かを検討します。



4-6 「主体的・対話的で深い学び」で資質・能力を育成する

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、教師の視点だけでなく児童生徒の視点から考えることも大切です。「教師の授業改善」と「児童生徒の学びの改善」を往還することで、各教科等の資質・能力を育成していきます。

児童生徒の学びの改善

教師の授業改善



主体的・対話的で深い学びの実現

各教科等の資質・能力の育成

4-7 「主体的な学び」に向けた授業改善の視点

「主体的な学び」について児童生徒の視点と教師の視点から見てみると、次のように整理できます。それぞれの視点を意識しながら授業改善を図ります。

児童生徒の視点

- ・学ぶことに興味や関心をもつ
- ・自己のキャリア形成の方向性と関連付ける
- ・見通しをもつ
- ・粘り強く取り組む
- ・自己の学習活動を振り返って次につなげる

GIGA端末は、画像で見たり、インターネットで調べたりするだけでなく、クラウドに蓄積した自らの学習状況を振り返り、見通しをもったり、次の学習につなげたりすることに役立ちます。

児童生徒、教師の視点を参考にしながら、「主体的な学び」でのGIGA端末の活用を考えてみましょう。

参考2「授業や業務の改善につながる」4, 5

教師の視点

- ・既習事項を振り返らせる
- ・具体物を提示して引きつける
- ・児童生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定する
- ・児童生徒が自らめあてをつかむようにする
- ・学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる
- ・児童生徒が自分の考えをもつようにする
- ・児童生徒の思考を見守る
- ・児童生徒の思考に即して授業展開を考える
- ・児童生徒の考えを生かしてまとめる
- ・その日の学びを振り返らせる
- ・新たな学びに目を向けさせる



4-8 「対話的な学び」に向けた授業改善の視点

「対話的な学び」について児童生徒の視点と教師の視点から見てみると、次のように整理できます。それぞれの視点を意識しながら授業改善を図ります。

児童生徒の視点	教師の視点
<ul style="list-style-type: none">・児童生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める・教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める・地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める・先哲(※)の考え方を手掛かりに考える	<ul style="list-style-type: none">・思考を交流させる・交流を通じて児童生徒の思考を広げる・協働して問題解決する・板書や発問で児童生徒の学びを引き出す

GIGA端末は、児童生徒同士の協働を活性化するだけでなく、教職員や地域の人との対話や先哲(※)の考え方を調べるのが容易になるなど、児童生徒の考えを広げ深めることに役立ちます。

児童生徒、教師の視点を参考にしながら、「対話的な学び」でのGIGA端末の活用を考えてみましょう。

参考2「授業や業務の改善につながる」1, 2, 3, 4, 7

(※)過去の優れた思想家や学

者



4-9 「深い学び」に向けた授業改善の視点

「深い学び」について児童生徒の視点と教師の視点から見てみると、次のように整理できます。それぞれの視点を意識しながら授業改善を図ります。

児童生徒の視点	教師の視点
<ul style="list-style-type: none">・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる・知識を相互に関連付けてより深く理解する・情報を精査して考えを形成する・問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	<ul style="list-style-type: none">・資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする）・単元や各授業の目標を把握する・ねらいを達成した子どもの姿を具体化する・教材の価値を把握する・単元・題材及び各時間の計画を立てる・目標の達成状況を評価する



GIGA端末は、クラウドに蓄積した学びをもとに知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりすることに活用できます。

児童生徒、教師の視点を参考にしながら、「深い学び」でのGIGA端末の活用を考えてみましょう。

参考2「授業や業務の改善につながる」2, 5

4-10「主体的・対話的で深い学び」でGIGA端末を活用する

「主体的・対話的で深い学び」の視点で教科等の学びを深めたり、教科等の学びの本質に迫ったりするためのツールとして、GIGA端末を活用していきます。

主体的な学び

クラウドに蓄積した自らの学習状況を振り返り、見直しをもったり、次の学習につなげたりする。



対話的な学び

クラウドを通して協働したり、地域の人と対話したり、先哲(※)の考え方を調べたりして、自らの考えを広げ深める。
(※)過去の優れた思想家や学者



深い学び

クラウドに蓄積した学びをもとに知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりする。



4-11-1 「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて

資質・能力の育成

主体的・対話的で深い学び

周辺の授業デザイン

GIGA端末



「主体的・対話的で深い学び」の視点でGIGA端末を活用することで、児童生徒の資質・能力を育んでいくことが重要です。

そのためには、**GIGA端末を活用する周辺の授業デザイン**を意図的にすることが大切です。

「**周辺の授業デザイン**」とは、GIGA端末を活用する際に、授業者が授業のねらいに向けて構想すべき手立てのことです。



4-11-2 「主体的な学び」に向けた周辺の授業デザイン例

資質・能力の育成

主体的な学び

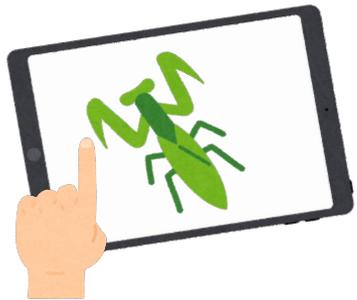
周辺の授業デザイン

GIGA端末



GIGA端末で資料を共有する際は…

見せたい部分を拡大して読み取らせることで、学習内容(対象)に対して興味や関心をもたせます。



GIGA端末の検索機能で調べる際は…
事前に調べる目的や方法を確認しておくことで、粘り強く調べていくことにつながります。



Googleフォームを使ってアンケートをとる際は…

アンケートの目的や分析の視点をもたせることで、探究の方向性が見えるようにします。

4-11-3 「対話的な学び」に向けた授業デザイン例

資質・能力の育成

対話的な学び

周辺の授業デザイン

GIGA端末



GIGA端末を活用して発表する際は…

自分が一番伝えたいことが詳しく伝えられているか確認し、表現方法を工夫できるようにします。



GIGA端末を活用した発表を聞く際は…

対話の時間を十分に設定することで、大切なことに気付き、質問や感想を返せるようにします。



GIGA端末で共同編集しながら解決策を考える際は…

話し合う必然性を感じさせることにより、メンバーが挙げたコメントをじっくりと考え、深めることができるようになります。



4-11-4 「深い学び」に向けた周辺の授業デザイン例

資質・能力の育成

深い学び

周辺の授業デザイン

GIGA端末

GIGA端末で撮影した写真から考えを形成する際は…

比較する際の視点や目的を明確にして、写真を比較したり、関連を考えることができますようにします。



GIGA端末で調べたことから考えを形成する際は…

考えるための技法(方法知)を提示して、収集した情報を整理・分析することで、比較・分類・関連付け等ができるようになります。



クラウドに蓄積した学びを活用する際は…

学びのねらいを明確にして、クラウドに蓄積した様々な学びの成果を振り返ることで、自分の学習を調整したり、知識を結び付けて概念として理解したりできるようにします。

